

平成 20 年度 (2008 年度) 温室効果ガスの排出量について

1 温室効果ガス排出削減目標

千葉市地球温暖化対策地域推進計画では、温室効果ガス排出削減目標について「平成 22 年度 (2010 年度) の温室効果ガス総排出量を、平成 12 年度 (2000 年度) より約 6 %削減し、可能な限り平成 2 年度 (1990 年度) レベルを下回るよう抑制する。」と定めています。

2 温室効果ガス排出状況

平成 20 年度 (2008 年度) の千葉市内の温室効果ガス総排出量は、16,645 千トン-CO₂であり、現況年度 (2000 年度) に比べ 7.0 %減少しました。

(千トン-CO₂)

部 門	基準年度 平成 2 年度 (1990 年度)	現況年度 平成 12 年度 (2000 年度)	平成 19 年度 (2007 年度)	平成 20 年度 (2008 年度)			目標年度 (2010 年度) の 排出量 (対 2000 増減率)
				排出量	対 2000 年度 増加量 (率)	対 2007 年度 増加量 (率)	
産業部門	13,422	13,127	13,612	12,081	-1,046 (-8.0 %)	-1,531 (-11.3 %)	12,395 (-5.6%)
業務部門	593	939	1,096	866	-73 (-7.8 %)	-230 (-21.0 %)	931 (-0.9%)
家庭部門	749	968	1,115	984	16 (1.6 %)	-131 (-11.7 %)	715 (-26.1%)
運輸部門	1,822	2,378	2,249	2,212	-166 (-7.0 %)	-36 (-1.6 %)	2,203 (-7.4%)
その他 (代替フロン等 3 ガスを含む)	357	476	537	502	26 (5.4 %)	-35 (-6.6 %)	552 (16.0%)
総排出量	16,944	17,888	18,608	16,645	-1,244 (-7.0 %)	-1,963 (-10.6 %)	16,796 (-6.1%)

※産業部門、業務部門、家庭部門、運輸部門は、代替フロン等 3 ガスを除く

※その他部門は、代替フロン等 3 ガスを含む

※基準年度は、代替フロン等 3 ガスについては 1995 年度とする

※総排出量は、端数処理をしているため、合計が一致しないことがある

3 各部門の増減状況

平成 20 年度 (2008 年度) と現況年度 (2000 年度) の温室効果ガス排出量を比べると、家庭部門以外は現況年度と比べ減少しています。また、平成 19 年度 (2007 年度) 対比では、すべての部門において減少しています。

平成 20 年度の千葉市全体の排出量に占める部門別構成割合は、産業部門が 72.6 %であり、非常に大きな割合になっています。(図 2)。また、平成 20 年度の産業部門の排出量 (12,081 千トン-CO₂) のうち、約 70 %にあたる 8,260 千トン-CO₂ が製鉄業から排出されています。

平成 20 年度の排出量が平成 19 年度から減少した原因は、経済状況の悪化が考えられるなか、全国の粗鋼生産量を比較すると約 13 %減少しており、本市においても同様な傾向が見られるなど、産業部門からの排出量の減少が市内温室効果ガス排出量の減少に繋がったと考えられます。

業務部門の排出量は、エネルギー消費量の減少により、前年度と比べ 21.0 %減少しています。

家庭部門では、冬季の高温 (2007 年度との比較) による暖房需要の減少等により、前年度と比べ 11.7 %減少しています。

運輸部門では、燃費の改善等により、前年度に比べ、1.6 %減少しています。

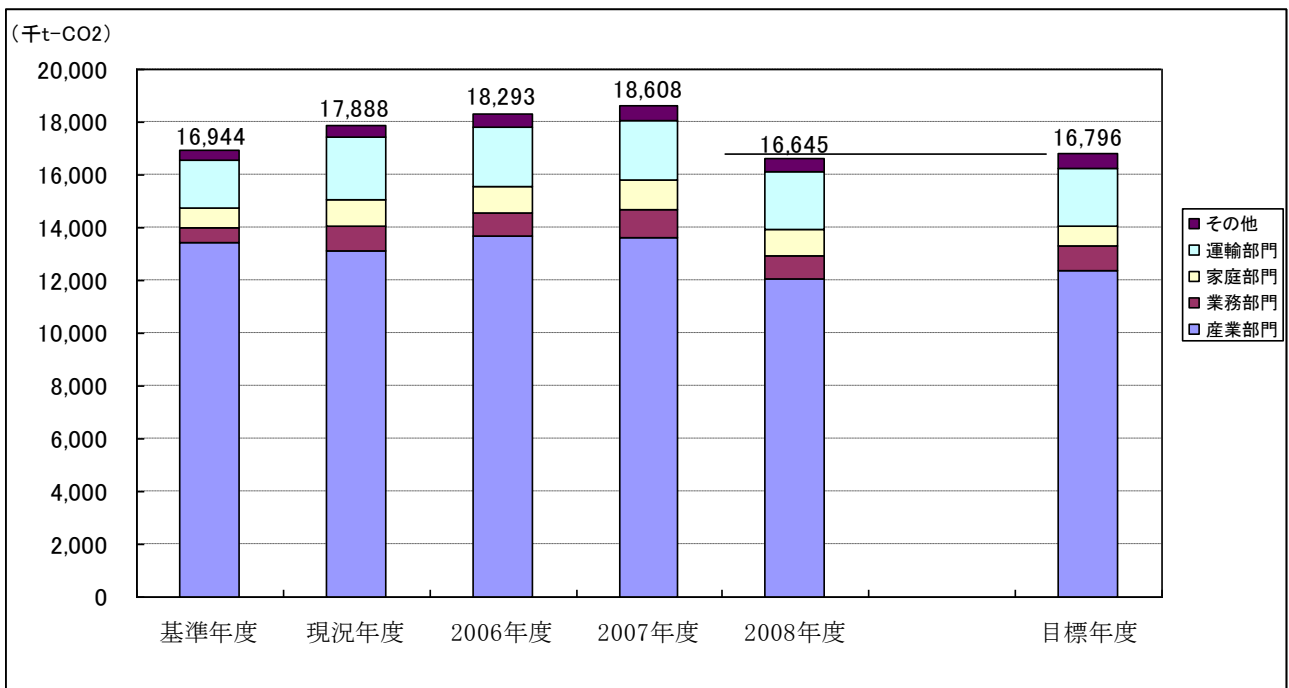


図1 温室効果ガス排出量の推移

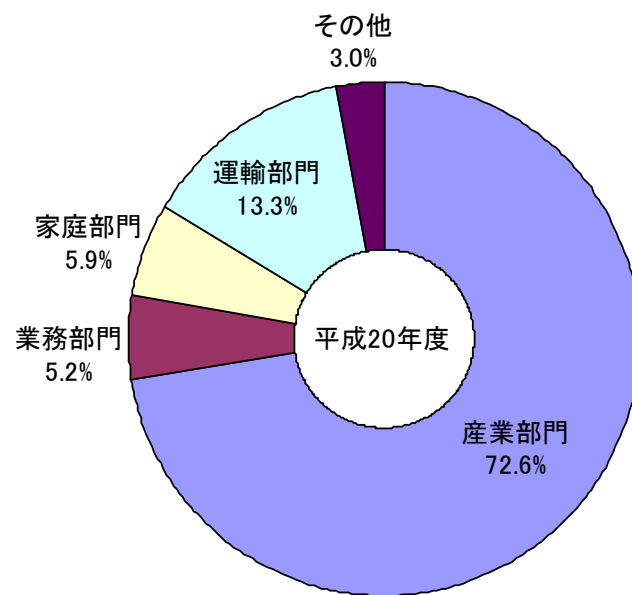


図2 温室効果ガス排出量の部門別構成割合(平成20年度)
(少数点以下第2位を四捨五入しています。)